

ELECTRONIC TOOTHBRUSH

Patent Number: JP2000236948

Publication date: 2000-09-05

Inventor(s): KOKAMA KENJI;; MURAYAMA ETSURO;; IKEDA SHIGEO

Applicant(s): SATELLITE INTELLIGENCE:KK;; PORITORONIKUSU:KK;; KOKAMA KENJI;; MURAYAMA ETSURO;; IKEDA SHIGEO

Requested Patent: JP2000236948

Application Number: JP19990046260 19990224

Priority Number (s):

IPC Classification: A46B15/00; A46B5/00

EC Classification:

Equivalents:

Abstract

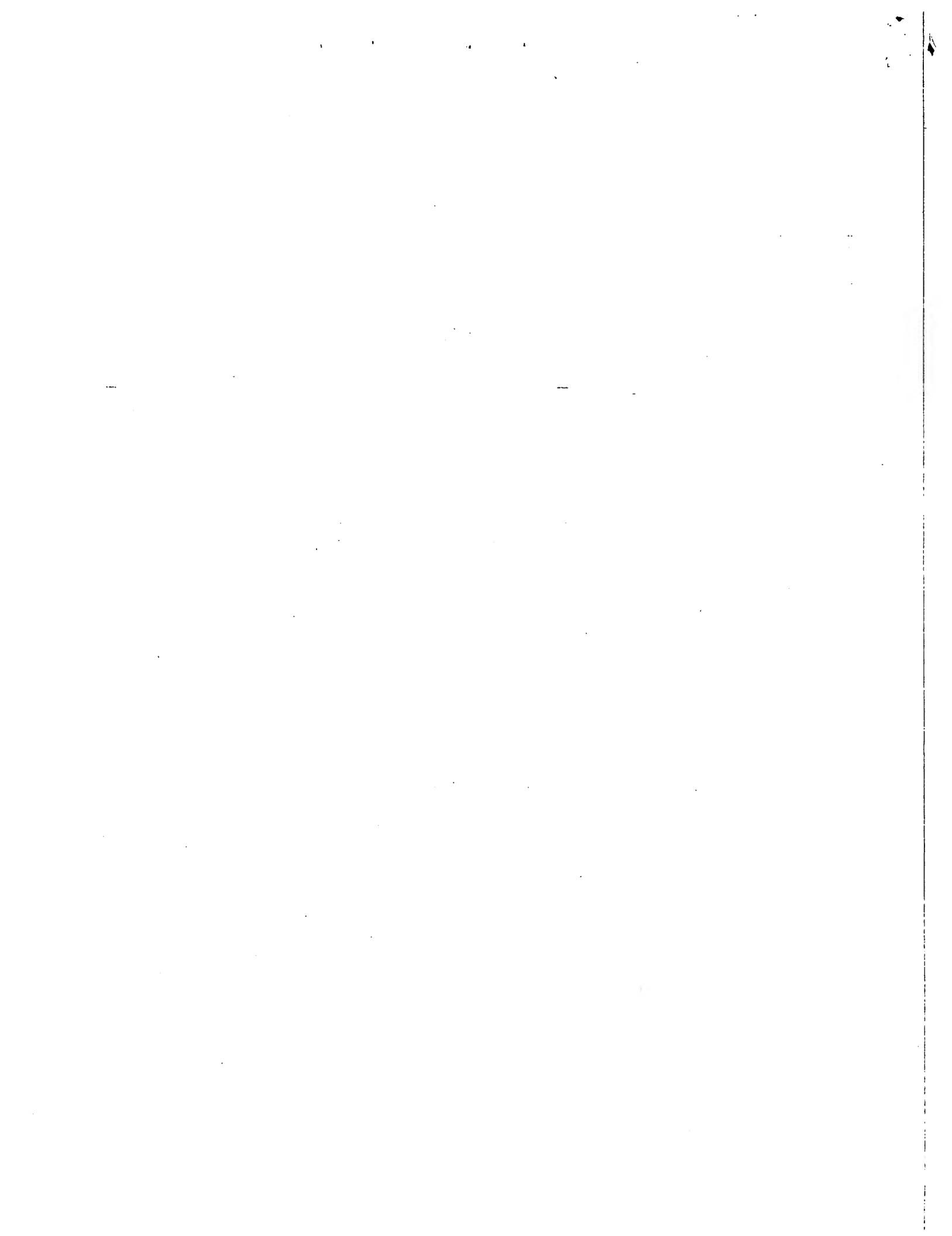
PROBLEM TO BE SOLVED: To eliminate the replacement of dry cells by designing a toothbrush in such a manner that a positive electrode can negative electrode have contact areas on the implanted part, and when they are electrically connected and is in contact with the skin at a time, current flows between them.

SOLUTION: At a base 1 of a brush 10, a thin plate negative electrode 6 is embedded, and one end of which is exposed from an aperture 7. At the implanted face of the base 1 on which bristle 3 is implanted, exposing apertures 3 is bored reaching the negative electrode 6, which is exposed outward through the exposing apertures 3, and a thin plate positive electrode 5 is covered on the face of a holder 4 including an insertion part 8. When a user holds the holder 4, the positive electrode 5 is in contact with the user's hand, and the skin contact area of the negative electrode 6 at the bristle 3 of the base 1 is in contact with saliva in the mouth, resulting that the positive electrode 5 and the negative electrode 6 are electrically connected through the body of the user, and current flows between them.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

22387
10/773760





(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-236948

(P2000-236948A)

(43) 公開日 平成12年9月5日 (2000.9.5)

(51) Int.Cl.⁷

A 46 B 15/00
5/00

識別記号

F I

A 46 B 15/00
5/00

テ-マ-⁷ (参考)

N 3 B 0 2
B

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全4頁)

(21) 出願番号 特願平11-46260

(22) 出願日 平成11年2月24日 (1999.2.24)

(71) 出願人 591137743

株式会社サテライトインテリジェンス
東京都港区南青山四丁目11番13号

(71) 出願人 390024844

株式会社ポリトロニクス
石川県金沢市つつじが丘109番地

(71) 出願人 395012215

小浦 賢司
千葉県千葉市緑区あすみが丘7-34-2

(74) 代理人 100058479

弁理士 鈴江 武彦 (外5名)

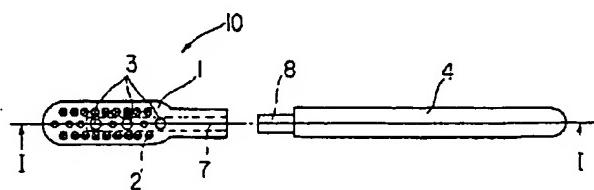
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 電子歯ブラシ

(57) 【要約】

【課題】起電力の低下がなく、電池交換が不要な電子歯ブラシを提供することを目的とする。

【解決手段】同時に皮接されるように配置された二種の異なる導電性物質を具備する電池素子を配設することにより、生体に皮接するだけで電流を与えることができる歯ブラシを提供する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 使用時に微小電流を流して歯垢の除去を補助する電子歯ブラシであって、

基台の片面に歯を磨くための刷毛が植設されたブラシ部と、

該ブラシ部の一端植毛部及び該植毛部から延出した把持部からなる歯ブラシであってと、少なくとも一つの皮接面を有する・以上の正極部と少なくとも一つの皮接面を有する・以上の負極部を具備する電池素子が・以上配設され少なくとも一部分が使用時に口腔内で液体に接触するように露出した状態で、前記ブラシ部の基台に設けられた正極部および・または負極部と、

前記正極部および負極部の一方のみが前記ブラシ部の基台に設けられる場合に、使用時に使用者の手に接触するように前記把持部に露出して設けられた正極部または負極部とを具備すると共に、

前記正極部は、少なくともその表面が前記負極部に比べて高い標準電極電位を有する導電性物質からなりり、前記負極部は、少なくともその表面が前記正極部に比べて低い標準電極電位を有する導電性物質からなりり、前記正極部及び/又は前記負極部が、植毛部に皮接面を有し、

前記正極部と前記負極部とは電気的に接続されており、同時に皮接したときに使用時には使用者の身体と共に生体電池を構成して前記微小電流を流す電子通電して電流を与えることを特徴とする歯ブラシ。

【請求項2】 請求項1の歯ブラシであって、負極部の導電性物質がII型半導体である歯ブラシ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、微少電流によって歯垢を除去する歯ブラシに関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、不規則な日常生活や食生活の変化から、歯肉炎等の歯周疾患が増加している。歯周疾患の主因は歯垢の沈着であるが、歯垢は歯に強固に付着しているために除去するのが容易ではない。これまでに、歯垢を除去するための歯ブラシや歯磨き粉が多数開発されているが、これらの多くは化学的作用又は物理的機械的な力を利用するものである。

【0003】 これに対して、最近、歯に微少電流を流して歯垢を分解する歯ブラシ（以下電子歯ブラシ）が提案され、歯周病の予防及び治療に効果的であることが明らかとなっている。

【0004】 従来の電子歯ブラシは、典型的には、把持部に内蔵された電池、把持部の表面上に設置され、且つ一端が該電池の正極と接触している金属（正極金属）、及び植毛部の植設面に露出した表面を有し、且つ一端が該前記電池の負極に接触している金属（陰極金属）を具備する。正極金属を手で握った状態で該電子歯ブラシを

口腔に入れ、負極金属を唾液に接触させると、内蔵されている電池の正極と負極が通電されて、歯に微少電流が与えられる。

【0005】 しかし、電池が内蔵された従来の電子歯ブラシは、時間とともに起電力が低下し、効果が減弱するのみならず、電池の交換が不可欠であるという欠点を有している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、従来技術に存するこのような欠点を克服するためになされたものであり、起電力の低下がなく、電池交換が不要な電子歯ブラシを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】 上記課題を解決するため、本発明は、使用時に微小電流を流して歯垢の除去を補助する電子歯ブラシであって、基台の片面に歯を磨くための刷毛が植設されたブラシ部と、該ブラシ部の一端から延出した把持部と、少なくとも一部分が使用時に口腔内で液体に接触するように露出した状態で、前記ブラシ部の基台に設けられた正極部および・または負極部と、前記正極部および負極部の一方のみが前記ブラシ部の基台に設けられる場合に、使用時に使用者の手に接触するように前記把持部に露出して設けられた正極部または負極部とを具備すると共に、前記正極部は、少なくともその表面が前記負極部に比べて高い標準電極電位を有する導電性物質からなりり、前記負極部は、少なくともその表面が前記正極部に比べて低い標準電極電位を有する導電性物質からなりり、前記正極部と前記負極部とは電気的に接続されており、使用時には使用者の身体と共に生体電池を構成して前記微小電流を流す電子歯ブラシ毛が植設された植毛部及び該植毛部から延出した把持部からなる歯ブラシであって、少なくとも一つの皮接面を有する・以上の正極部と少なくとも一つの皮接面を有する・以上の負極部を具備する電池素子が・以上配設され、前記正極部は、少なくともその表面が前記負極部に比べて高い標準電極電位を有する導電性物質からなりり、前記負極部は、少なくともその表面が前記正極部に比べて低い標準電極電位を有する導電性物質からなりり、前記正極部及び/又は前記負極部は、植毛部に皮接面を有し、前記正極部と前記負極部は電気的に接続されており、同時に皮接したときに通電して電流を与えることを特徴とする歯ブラシを提供する。

【0008】 本発明は、標準電極電位に差がある二種類の電極を生体に接触したときに形成される生体電池を応用したものである。この生体電池については既に認められており、肩こり治療具等に応用されている。生体電池の原理については、例えば特開平8-173554号に記載されている。

【0009】

【発明の実施の形態】 以下、図面を参照しながら本発明

の実施例を説明する。

【0010】図1は、本発明の一実施例の電子歯ブラシを、ブラシ部と把持部とに分解した状態で示すの上面図であり、図2は該上面図、図1の歯ブラシを組み立てた状態で、図1の線I—Iに沿ったおける断面で示す図である。

【0011】本発明の電子歯ブラシは、植毛部基台1に、歯を磨ぐための刷毛2を植設したブラシ部10と、開口部3、該ブラシ部10の一端部に結合されて延出する把持部4とを具備している。基台1の結合部には差し込み穴7が形成され、また把持部4の結合部には挿入部8が形成されていて、この挿入部8を差し込み穴7に嵌合することにより、一体の歯ブラシに組み立てることができる。基台1および把持部4は、プラスチック製または木製等、従来の歯ブラシに使用されているものを用いることができる。刷毛2もまた、動物の毛、ナイロンのような合成繊維など、従来の歯ブラシに通常用いられているものを使用することができる。

【0012】ブラシ部10の基台1には、薄板状の陰極らが埋設されており、その一端部は挿入穴7において露出している。また、刷毛2が植設された基台1の植設面には、陰極らによる露出穴3が穿設されており、該露出穴3を通して陰極らは外部に露出されている。一方、挿入部8を含む把持部4の表面には、薄膜状の正極らが被着されている。正極ら、及び陰極らを具備する。従って、挿入部8を差し込み穴7に挿入して歯ブラシを組み立てると、唇人部表面の正極らは差込穴に露出している陰極らに接触し、両者は電気的に接続される。

【0013】植毛部1に植設されている毛2は、歯ブラシに通常用いられるものである。

【0014】上記のように、開口部3が設けられているため、組み立てられた歯ブラシを所期の用途で使用すると、は、唾液が開口部を通して陰極らの露出面に皮接面に接觸して、使用者の身体と電気的に接觸する。得るようく設けられている。ここで、「皮接面」とは、体液を含む身体部位と直接接することができる表面を意味する。開口部3を設けない場合には、陰極らは、植毛部基台1の表面上に設ける。以上の皮接面を有さなければならない一方、所期の態様使用においては、使用者が把持部4を握って使用するから、正極らが使用者の手に接觸する。その結果、正極らおよび陰極らは使用者の身体を介して電気的に接続し、電池素子を形成することになる。

【0015】本実施例の植毛部1は、握持部4を嵌合するための凹部を有する、該凹部には、陰極らの一端が配置されている。

【0016】陰極らに用いる導電性物質は、正極らに用いる導電性物質に比べて低い標準単極電位を有する任意の導電性物質であり得る。導電性物質には、金屬及び

その合金、並びに半導体が含まれる。n型半導体を用いると、電極上に塩が析出せず電流が安定に供給されるので、導電性物質にはn型半導体を使用することが好ましい。n型半導体には酸化亜鉛、酸化錫、酸化インジウム、酸化アンチモンなどの金属酸化物半導体が含まれるが、これらに限定されない。

【0017】本実施例の把持部4の表面に設ける正極らは、導電性物質をメッキして形成することができる。されており、該導電性物質が正極らとして作用する。正極らに用いる導電性物質は、化学的変化を受け難く且つ高い標準電極電位を有する任意の金属又はその合金であることが好ましく、金が特に好ましい。

【0018】握持部4の一端には凸部が存在し、植毛部1の凹部に嵌合される。該凹部には陰極らの一端が配設されているので、正極らは陰極6と直接接觸して、両者で電池素子を形成する。

【0019】本実施例の電子歯ブラシの使用法は、普通の歯ブラシと全く同じであり、把持部4の上に存在する正極らを手で握った状態で、植毛部1を口腔内に入れて歯を磨けばよい。口腔内に存在する唾液が開口部3によって陰極らに触れると、正極らと陰極らは通電され、歯に微少電流を与える。この微小電流の作用によって、優れた歯垢除去効果を得ることができる。

【0020】なお、上記実施例では本実施例では、正極が把持部に配設され、ブラシ部の基台1に負極が植毛部に配設されているが、把持部に負極を配設し、植毛部に正極を配設してもよい。また、植毛部に正極とおよび負極の両者を植毛部に配設しても、所期の生体電池が構成され、上記と同様の効果を得ることができる、することもできる。

【0021】更に、本実施例のように正極と負極との接觸は、上記実施例のように両者を直接接觸させることにより達成してもよいが、導電性物質を介して電気的に接觸することにより達成してもよい。

【0022】本発明の電子歯ブラシは、植毛部と把持部が連続一体をなす構造であってもよいり得るが、植毛部のみを交換し得るように、本実施例のごとく把持部から植毛部を取り外せる構造が好ましい。

【0023】加えて、本発明の電子歯ブラシには、以上の電池素子を配設することも可能である。

【0024】

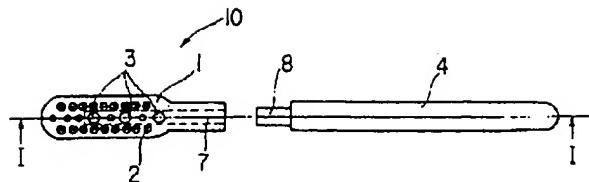
【発明の効果】以上のように、本発明の電子歯ブラシは、微小電流により歯垢の除去を補助できると共に、電池交換が不要であり、且つ起電力が低下しないという顕著な効果を有する。

【図面の簡単な説明】

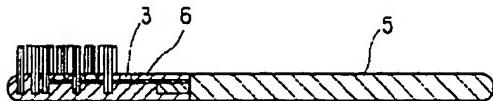
【図1】本発明の電子歯ブラシの実施例を示す図。

【図2】図1の断面図。

【図1】



【図2】



フロントページの続き

(71)出願人 599025396

村山 悅朗

神奈川県藤沢市白旗3-2-8

(71)出願人 598150215

池田 成夫

東京都世田谷区東玉川2-37-17

(72)発明者 小浦 賢司

千葉県千葉市緑区あすみが丘7 34 2

(72)発明者 村山 悅朗

神奈川県藤沢市白旗3-2-8

(72)発明者 池田 成夫

東京都世田谷区東玉川2-37-17

ドターム(参考) 3B202 AA06 AB30 BA02 CA05 CB07

DB04